

夢の設計図

やりたい仕事や実現したい夢 しごと じつげん ゆめ その仕事や夢を選んだ理由 しごと ゆめ えら りゆう

小説家 しごと 小説家 文章や文字を書くのが好きだから 文章や文字を書くのが好きだから

その仕事や夢を実現するために必要な条件(資格など)や力、お金はなんだろう しごと ゆめ じつげん ひつよう じょうけん しかく ちから かね

語彙力 知識 構成力 哲学 想像力

年齢 <small>ねん 年れい</small>	必要な能力を身につけるためにやること <small>ひつよう のうりよく み</small>
12歳 <small>さい 12</small>	小学校 <small>しょうがっこう</small> 語彙力を身につける <small>語彙力を身につける</small>
13歳 <small>さい 13</small>	中学校 <small>ちゅうがっこう</small> 知識を蓄えるの <small>知識を蓄えるの</small> 実現 <small>実現</small> 身につける <small>身につける</small>
16歳 <small>さい 16</small>	高校 <small>こうこう</small> 構成力と <small>構成力と</small> 哲学の力を身につける <small>哲学の力を身につける</small>
19歳 <small>さい 19</small>	実際に小説を書き始める <small>実際に小説を書き始める</small>
20歳 <small>さい 20</small>	新人賞に応募する <small>新人賞に応募する</small>
22歳 <small>さい 22</small>	小説家デビュー <small>小説家デビュー</small>
26歳 <small>さい 26</small>	小説家 <small>小説家</small> 100万部とは(自分の小説) <small>100万部とは(自分の小説)</small>
30歳 <small>さい 30</small>	父母の世話介護を始める <small>父母の世話介護を始める</small>
70歳 <small>さい 70</small>	小説家終わる <small>小説家終わる</small>

→ 1921.686 (平均)
→ 465.191
→ 1372.140
大賞 2472.118
賞 4738.710
私立

仕事以外であなたが大人になったらやってみたいこと、実現したいこと しごと いがい おとな じつげん
動物を飼う。父母の世話介護。
日本の全ての県に行く。結んで子どもは3人。

← 一匹あたり 数万円~ 数十万円

*こちらは、小学生『夢をかなえる』作文コンクールの「ライフプランシート」としても使えます。

幼い頃からの愛と馴染み

柏市立田中北小学校 五年 古屋 志穂

私は、幼い頃から本に馴染みがあった。幼稚園に通う前は、「あー」とか「うー」とか言いながら絵本を読み、幼稚園生の時は伝記を読み始め、小学校に入る頃には、小説を読んでいた。人より本を読んできた自信がある。そんな私は夢があるのだ。多くの知識と語彙力を持ち、みんなをあとと言わせる小説家。そんな小説家になりたいのだ。幼い頃からの本への馴染みと愛が小説家になりたい気持ちに強くさせ、突き進む原動力になったのであった。

ある日、私は総合の学習でライフプランシートを書くことになった。しかし、そのライフプランシートを見た時、私は自分が無知だったと知らされた。小説家に必要な能力や、なるために行ったほうが良いことなどは、考えたことも無く、もちろん知らなかった。今までも総合の学習で、小説家について調べた事はあつ

た。しかし、必要な能力や、やったほうが良い事までは調べていない。その時、私は痛い程実感した。夢を叶えるには、なりたいたいという気持ちも大切だが、そう簡単には叶えられない。そこから、多くの言葉を使って苦戦しながらも調べた。簡単になれないから諦めたくなかった。自分の大事な夢だからだ。調べた結果、小説家は、語彙力や知識、構成力、哲学が主に必要とされ、小説家になるには大体四パターンあるらしい。一つ目は、新人賞を狙う事だ。専門の人が見てくれるので選ばれたら世間から認められやすいが、応募人数が多いので選ばれにくいのは、確かだ。二つ目は、出版社に持ち込む事だ。専門的なサポートも受けられ、多くの人に読んでもらえる可能性があるが、編集者との共同作業なので自分の表現が全部通ることは難しい。三つ目は、インターネットで作品を発表する事だ。

アピールは簡単だが、面白さが保証されるかどうかは難しい所だ。四つ目は自分で出版する事だ。自分の好きなように出版出来るが、出版社が出した本に比べると売れにくい可能性が高い。この四パターンの中から自分の気持ち優先して迷ったあげく、自分の視点から考え抜いた。私は、新人賞を狙うのが一番良いと思う。多くの人が応募している、小説家は遠い夢になるだろう。しかし、苦勞してその狭き門をくぐった人が真の小説家ではないのかと考えた。夢を叶えるのは何年先かも分からないし、なれないかもしれない。だけど、その夢を叶えるために行った努力は、無駄ではないと思う。私は本を沢山読んで語彙力やプレゼンや作文の力を鍛え、知識を蓄えて、考察力を大事にして、どんなに苦しくても小説家になってみせる。この気持ちとはどんな物でもひびも入らない。自分の大切な夢で気持ちは岩以上に固いからだ。私は応援してくれる人達への感謝と幼い頃からの本への愛と馴染みを胸に、小説家への道を歩んでいきたい。